

Ocean

- 被害者と加害者との出会いを考える会 -

死刑をめぐる対話

～被害者家族と加害者家族～



原田正治 × 松本麗華

講演 「日本の死刑～考えるための若干の素材と視点～」 田鎖麻衣子 (弁護士)

総合司会 柳下み咲

司会 風間勇助

2023 10月14日 (土)

14時～16時30分 (開場13時30分)

会場 ドーンセンター

(大阪府立男女共同参画・青少年センター5階) 参加費1000円



主催：Ocean (オーシャン) 2007年設立 代表 原田正治

協賛：真宗大谷派・北海道教区

後援：アムネスティ死刑廃止チーム大阪 / 一般社団法人「共に生きる」
死刑を止めよう宗教者ネットワーク / 人権と報道・連絡会

Ocean HP



QRコードからPeatixにて予約受付中

弟が殺害され、その加害者が死刑に処された原田正治さん、父を死刑で失った松本麗華さん。異なる立場にありながら、死刑という一点で結びついた2人が、死刑制度について語り合います。死刑問題に長年取り組む田鎖麻衣子弁護士が、日本の死刑を取り巻く状況を解説。受刑者と芸術の関わりを研究する風間勇助さんが、異なるバックグラウンドを持つ3人の話をコーディネートします。

登壇者

松本麗華



1983年4月、松本智津夫の三女として生まれ、後に父親はオウム真理教の教祖となる。16歳の時に教団から離れたが、麻原彰晃の家族ということで社会から様々なバッシングを受ける。文教大学臨床心理学科卒。日本産業カウンセラー協会所属。2015年3月、自身の半生を振り返る手記『止まった時計』（講談社+α文庫）を発表。2023年8月、原田正治氏との対談を『被害者家族と加害者家族 死刑をめぐる対話』（岩波ブックレット）として出版。執筆の他、こころの談話室あかつきの相談員として活動中。2019年より、加害者家族を支援することを目的とする一般社団法人共にいきるの理事を務める。ブログ「自由をもとめて」、Twitter、Instagramで発信している。

原田正治



愛知県出身 1983年愛知県「半田保険金殺人事件」で末弟を殺され、事件後十年目、加害者と被害者遺族として異例の面会に臨む。以後、彼らの死刑停止および面会継続を求め活動を開始。現在は死刑制度に深い関心を寄せながら犯罪被害者の救済支援および確定死刑囚との面会の自由、対話の重要性を主張し講演活動など行っている。現在は『宮崎事件』、冤罪と云われる『福岡事件』に取り組んでいる。『HER MOTHER』シネマトークなどに参加。著書に『弟を殺した彼と、僕』ポプラ社（2004年8月）など。『Ocean-被害者と加害者との出会い考える会-』を設立（2007年）。

田鎖麻衣子



弁護士、特定非営利活動法人 CrimelInfo 代表。
弁護士として死刑再審事件や刑事施設での処遇をめぐる国家賠償請求事件などに取り組みながら、日弁連刑事拘禁制度改革実現本部など弁護士会活動に従事。NGO メンバーとして 2002 年には世界死刑廃止連盟（WCADP）の設立に参加、2019年3月まで約10年間、NPO 法人監獄人権センターの事務局長を務めた。2016年より CrimelInfo の前身となるプロジェクトを英国・レディング大学と共同で開始し、2019年に、NPO 法人 CrimelInfo を立ち上げる。

風間勇助



奈良県立大学地域創造学部講師。
1991年静岡生まれ。専門はアートマネジメント、文化政策。この社会で埋もれてしまうかもしれない小さな声に、どのように寄り添い社会に表現としてコミュニケーションを生み出せるのかに関心を持ち、刑務所とアートを主な研究テーマとして実践、研究している。NPO 法人マザーハウス理事、NPO 法人 CrimelInfo デジタルオフィサーを務める。

会場案内

ドーンセンター

大阪府立男女共同参画・青少年センター 5階
大阪府大阪市中央区大手前1丁目3-49



書籍情報

岩波ブックレット

『被害者家族と加害者家族 死刑をめぐる対話』
著者：原田正治、松本麗華



弟を殺害した死刑囚と面会し対話を続けた原田氏。オウム真理教・教祖の娘として大学への入学拒否など社会から排除されてきた松本氏。立場が異なりながらも、事件に巻き込まれ差別や孤立を強いられてきた二人の対話から見える、この国の形とは。被害者を置き去りにしながら加害者への憎悪を煽り、死刑を存置する社会を問う。

定価 693円（税込み）

お問合せ

Mail : ocean.vp2007@gamil.com